



## われら サークル仲間 伝統の音色に 心はずませ

中央公民館には五教室十七サークルがあり、文化祭への参加などいろいろな活動が行われています。  
今回は三味線・太鼓教室におじゃましました。

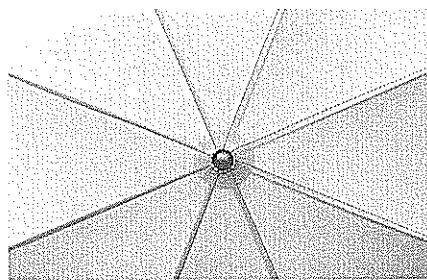
毎月第一、第二、第三水曜日の午後七時から大篠地区公民館で三味線・太鼓教室が開かれています。講師は高橋君代さんとその息子さん夫妻。現在四十歳代から七十歳代まで太鼓三人、三味線十七人のメンバーが楽しく練習しています。

この三味線・太鼓教室は今年一月から始まったばかり。昨年、民謡教室が終わったのをきっかけに、その練習生だった人たちの「今度は民謡と深い関わりのある三味線を習ってみたい」という希望でできたものです。

親切、丁寧な先生の指導のもと、「荒城の月」から始まった練習曲もはや四曲目。「チャレンジ精神で入会しましたが、なかなか難しく思うように弾けません」と言いながらも、実に楽しんでそんな雰囲気練習に励んでいました。

教室生は「二つ一つ新しい曲を弾けるようになることが楽しみです。何よりも好きだから続けているんです」と語ってくれました。

### これはなんでしょう



親子クイズ  
230

第229回当選者発表(敬称略)  
(応募総数29通)

小谷朱美(篠原)  
浜田綾(浜改田)  
久万卓男(稲生)  
竹内弓恵(十市)  
中橋美咲(稲生)

お便りの中から皆さんの思い出の一部をご紹介します。

◆雄大なこいを空に泳がすのは今年で六回目。最初は子どもと同様親も喜んで朝早くからうきうきしながらフラフとこいのぼりをさおにつけていました。最初の感激を忘れずあと二年ガンバツてこいを空に舞いあがらせます。

◆私は女のきょうだいなのでこいのぼりはありません。だからよその家のこいのぼりを見るとちょっぴりうらやましいです。けれどわたしたちはひなまつりがあります。だから早く三月三日になってほしい!

◆大阪から引っ越して来て、大阪ではミニサイズのこいのぼりしか見かけなかったのですが、南国市に来て大空に泳ぐこいのぼりはほんとうに気持ちよそさつ。子どもたちも

のびのびと育てられるでしょう。

◆長男が生まれたのは二十七年。東京の住宅地でこいのぼりを立てる余地のないところに主人は大きめのこいのぼりを買ってきて、近所の迷惑そうな目を気にしながら初節句を祝いました。その後中学、高校と主人の郷里のこの地で過した長男は再び東京の大学にそして東京に就職して今年四年目に入りました。孫が生まれたらこの里にこいのぼりを立てるのだと言っていた主人も亡くなり今年は十一年目になりました。長男のこいのぼり少し色あせていますが大切にあってあります。孫が生まれたらこれも添えて早く立てれる日を心待ちにしています。そろそろお嫁さんを見つけてきてくれるといいのですが、毎日仕事に追われているそうです。

◆さわやかな青空の日に色とりどりのこいのぼりを見ると娘の幼いころ私の家にもこいのぼりが欲しいとねだられてとても困ったときがありました。